

## 編集後記

2018年4月に、経営学科と情報システム学科の2学科からなる経営情報学部 (Faculty of Business and Informatics) に改組してから4年。今春、はじめての卒業生を社会に送り出しました。AI時代において、経営分野や情報分野で活躍できる人材を育成すべく、人間中心の経営と情報システムを主軸にすえた教育を実践してきました。これからその教育・研究成果が問われる訳ですが、更なる進化に向けて現在、カリキュラムの抜本的な見直しを実施しているところです。

本学は、典型的な地方の文系の小規模私立大学です。立地も交通の便利な新潟市の中心部ではなく、電車で30分も離れたどこまでも田んぼがひろがる場所にあります。これだけを見れば、大学運営はかなり厳しいものと想定されます。一方で近年、本学への受験者数は確実に増加しております。その遠因のひとつとして国際学部と経営情報学部の両学部から、毎年各1名の教員が1年間、在外研修に参加していることがあるかと考えております。北米、ヨーロッパの諸大学にとどまらず、アジアやオセアニアの大学で学んできた成果は、競争的研究費の獲得者の増加をはじめとして、着実に学部教育や研究成果にあらわれているものにとらえております。

現状、コロナ感染症はいまだに収束の見通しがたらず、その結果、学会や研究会の多くがオンラインでの開催となり、また現場調査等のフィールドを相手とする研究活動などは滞りがちで、その打開策を練っているところかと察します。このような中で、本号 (Vol.5) では紀要論文4本、研究ノート3本に加え、地域貢献報告書1本の投稿がありました。また教員の活動報告 (任意) も掲載してありますので、ぜひ皆さまの研究者ネットワークの充実に活用して頂きたいと思えます。

現在の社会、経済環境をVUCA (Volatility/Uncertainty/Complexity/Ambiguity) ととらえる論者も多くなってきたように感じますが、このような状況であればこそ、大学における教育・研究活動は益々重要となると考えます。大学院や研究所を有しない地方の小規模な私立大学において「経営情報学部紀要」を、学部教育を中心としながら研究活動や地域活性化等における報告の場として、また全国の研究者たちとの交流のきっかけを提供する場として利用頂ければ幸いです。

経営情報学部長  
(兼) 紀要編集委員長  
小林満男